

第3回女性活躍井戸端会議内容

(区長との意見交換会)

開催日時：令和2年12月4日（金）13：15～15：00 開催場所：地域交流センター
（区長：15人 参加委員：15人 欠席6人）

○開会

○テーマ：区・地域活動における男女共同参画

論 点：①区・地域活動における女性参画の現状

（女性がどのような役員を担っているか、女性の意見を反映させるために行っていること）

②女性が参画するために課題となっていることは

③女性の参画をすすめるにはどうしたらよいか



○内容

◆現状

- ・区長、区議会議員、長とつく役職には、女性はいないが、民生委員、日赤奉仕団、公民館役員などは女性が担っている。
- ・女性の声や意見を区へするため、相談窓口の開設や、お茶会を組織化して開き、区長が話を聴くなど工夫されている区もある。
- ・女性活躍について区内で話し合いを設けている区もある。

◆課題

- ・山作業等が多く、女性役員が増えたときに区の作業がまわるか
- ・区議会の会議時間が夕方から夜が主で、家庭が忙しい時間帯
- ・女性を受け入れるため、区として体制整備、環境整備が必要
- ・区議会議員を決める方法や区規約の変更
- ・女性自身の意識改革

◆提案：女性役員擁立、意見吸い上げ方法

- ・区議会議員選出する者の意識改革
- ・女性自身の意識を改革
- ・女性が参加しやすくするため1人より複数人を登用する
- ・区民による有望者の推薦
- ・任期のクォーター制

コメント（抜粋）

- 仕事の内容は会議だけではない。「現場の労務」も関連してくる。山の管理・どぶさらいなど肉体的な作業は女性には厳しい。女性が3割になると作業は困難だが、それでも入ってきてくれるのは歓迎だ。
- ジェンダー問題・家庭から出てこられない現実・固定概念が抜けない世代の問題
- 議会も他に職を持っていて、男性も役員をすることが難しくなっている。女性が意識を持って出てもらうことが重要になっている。出てくれれば、しきたりや風習といったものに対して対策は打っていける
- 役員は地域推薦で成り立っているという選出方法に問題がある。
- 女性は、決断力も早いし、感性も豊かである。男性は、周りを見ながら相場を探す。その強みをお互いに出して認め合いながら交流すれば良い
- 制度として風穴を空けるのは大切だが、もっと女性の強みを生かしてストレートに問題意識を表に出すことができれば、男女の持つ問題意識の領域は狭まってくる
- 「女性の意識が低い」のではない。世間がそう思わせてしまっているということ。区の役は男性がやるという歴史はずっと繰り返されている中で女性が「やります」というにはハードルが高い。
- 女性の意識の改革の必要性はわかる。一方長い歴史の中で、女性の意見は「うるさい」「女のくせに」と言われる風習は根強く残っている。意見をストレートに伝えられる普通の社会にしていけるよう、環境の整備を。

○閉会